

進捗状況の概要 【1ページ以内】

■ コンソーシアムの設置:

- ・東フィンランド大学 (UEF) , ルーヴェン・カトリック大学 (KU Leuven) , サンテティエンヌ ジャン・モネ大学 (UJM), 豊橋技術科学大学 (TUT) 及び Associate Academic Partner として千葉大学, 宇都宮大学及び欧州・日本の企業8社をメンバーとして, 本プログラムを実施・運営するためのコンソーシアムを設置した。
- ・コンソーシアム内に AMB (Academic and Management Board) 及び QAB (Quality Assurance Board) を設置し, 事業運営, 教学, 学生支援等を規定したコンソーシアム・アグリーメント (CA) を締結した。
 - ・AMB: プログラムの全体運営・管理, 学生選考, 学生履修管理等を担当。
 - ・QAB: プログラムの質保証ポリシー策定・実施, モニタリング, 質保証促進等を担当。

■ 大学世界展開力推進室の設置:

- ・本学内に事業推進室を設置し, 副学長 (国際連携担当) を室長とし, 情報・知能工学系を中心とした教員, 関係事務で室を組織し, 専任事務職員2名を配置した。

■ 教育プログラム実施のための制度整備:

- ・コンソーシアム内で, 科目内容, 学位審査方法, 単位換算, 学生の応募資格, 選考方法, プログラム参加料・授業料, 奨学金等の経費分担などを EU 側と合意した。
- ・本学学生の修業年限が2年6か月となることから, 学則改正を行うとともに, プログラム実施のための学内規程 (IMLEX 規程等) を整備した。

■ 学生の募集・選考:

- ・2020年度プログラム参加学生 (第1バッチ学生) は, 欧州側, 日本側で学生の募集を行い, 欧州側116名の応募, 日本側は本学から8名の応募があり, 共同選考を行った結果, 欧州側募集学生11名, 日本側8名を採択候補者とした。欧州側応募学生は最終的に9名がプログラムに参加することとなり, 合計17名がプログラム参加することとなった。
- ・2021年度プログラム参加学生 (第2バッチ) は, 欧州側108名の応募, 日本側は本学から2名の応募があり, 共同選考を行った結果, 欧州側募集の学生17名, 日本側2名の計19名を採択候補者とした (最終のプログラム参加者は確定中)。

■ 新型コロナウイルス感染症への対応:

- ・新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の状況下で, 2020年9月から欧州側でのプログラム開始が危ぶまれたが, 欧州側の大学での学生受入れは, 一部の者の入国遅れがあったが, 全員現地で受入れることができた。現地での授業もオンライン・遠隔手法を取り入れながら実施された。他方, 2020年9月から欧州へ渡航予定であった本学学生8名は, 渡航を延期し, 欧州側大学から提供されるオンライン・遠隔での授業を受ける状況が2021年7月まで続いた。本学では海外からのオンライン・遠隔講義を受講するための環境を整備するとともに, 欧州での学生受入れ状況を鑑み, 学位取得目的の場合, 条件付きで海外渡航を認めることとした。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】 ※プログラムでの受入数, 派遣数はオンライン含む

(単位: 人)

	2019年度		2020年度	
	派遣	受入	派遣	受入
計画※	0	0	8	8
実績	0	0	8	9
実際に渡航した学生	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生	0	0	8	0
実渡航とオンライン受講を行った学生	0	0	0	9

※海外相手大学を追加している場合は, 追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

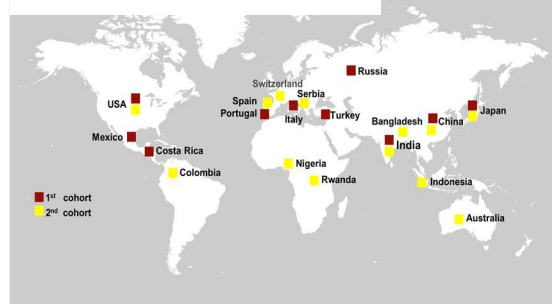
■ コンソーシアム体制での事業推進:

- ・日欧6大学、企業パートナー9社でのコンソーシアム体制を構築。日欧大学の代表者から構成するコンソーシアム内の2つの組織（AMB：Academic and Management Board 及びQAB：Quality Assurance Board）を設置し、プログラムの質保証の仕組みを取り入れた共同事業運営を行う体制を構築した。

■ 教育の国際通用性の向上, グローバル化:

- ・欧州側の複数大学と連携を通じ、欧州エラスムスプログラムに準拠した共同募集/共同選考、教育カリキュラム共同実施、共同指導、教員相互派遣、質保証等を通じ、大学院教育における国際通用性の促進、教育のグローバル化が図られている。
- ・本プログラムは、日本側と欧州の大学3大学が授与する複数学位（マルチプルディグリー）の取得が可能となるプログラムで、各大学が強みを持つ教育を受けることができる。また、多様な出身国からの学生が参加するプログラムとなっている。

2020/2021年度 参加出身国



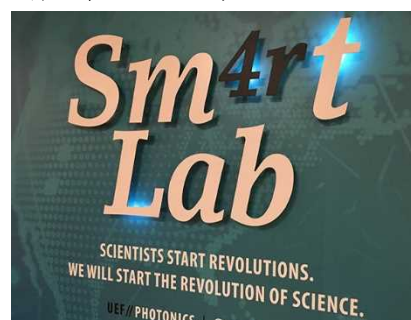
■ 学生中心の教育・学修の教育プログラム:

- ・EU側大学では、学生中心（Student-Centered）教育・学修の考えが一般化しており、本プログラムにおいても、教育内容、学生サービス等に関する学生からの意見をプログラム改善に繋げる仕組みを取り入れている。プログラムの質の保証の基準においても、学生中心の教育・学修・評価を行う観点を取り入れている。

■ 新型コロナウイルス感染症状況への対応:

- ・プログラム開始2年目の2020年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、初年度のプログラム開始が危ぶまれたが、欧州側大学での学生受入れは実施できた。授業は、対面及び遠隔・オンライン授業手法を併用で実施された。一例として、東フィンランド大学では、「Smart Lab (Sm4rtlab)」と呼ばれる、遠隔操作によるラボ実験が可能となる環境を整えた。
- ・日本からの第1回バッチ目派遣予定学生は、コロナ禍の影響で海外渡航ができない状況が長期間続いた。この間、欧州大学からの遠隔授業を受け、本学では、海外からの遠隔授業受講の専用のスペースを整備した。また、学位プログラム参加への海外渡航を条件付きで可能とする取扱いを定めた。

東フィンランド大学 Sm4rtLab



■ 大学のグローバル化への貢献:

- ・欧州の複数大学とのコンソーシアム型学位プログラムを通じ、これまでアジア諸国からの外国人留学生の受入れが中心であったが、欧州を窓口にした世界各地からの外国人留学生受入れが可能となった。また、欧州への日本人学生の海外留学の機会も拡充し、大学のグローバル展開の推進に貢献している。

■ 課題・成果の共有:

- ・文部科学省との意見交換（2020. 9. 17. オンライン）
- ・大学の世界展開力強化事業（EU大学との高等教育連携）採択校情報交換会（2020. 9. 28. オンライン）及びプラットフォーム事業シンポジウム（2021. 3. 18. オンライン）への参加
- ・専用ホームページの構築：東フィンランド大学、豊橋技術科学大学のHP上で公開。
- ・プログラム紹介ビデオを作成し、HPで公開。